

## 平成 15 年度事業計画

### 【研究関係】

#### 1. 造礁サンゴ関係

##### 造礁サンゴ類の飼育技術研究（林）

海で採集したミドリイシの受精卵を水槽で飼育し、1 年後に 100 群体以上生残させる。平成 14 年度は 2 月 26 日現在 10 群体生残。

ステラケミファ時代より継続

##### 造礁サンゴ類の増殖技術研究

###### ・クシハダミドリイシの生殖細胞形成過程の研究（中地）

昨年度試料の収集と脱灰方法の検討ができたので、今年度は組織切片を作り、研究の実質に入る。平成 14 年度より継続

###### ・受精卵の冷凍保存の可能性を検討する（岩瀬）

昨年度使用した保存容器が適当でなかったため、今年度は様々な保存容器を使ってさらに検討する。平成 14 年度より継続

###### ・着生基盤の再検討（林）

平成 14 年度より継続

#### 2. ウミガメ関係

##### 大岐の浜におけるウミガメ類の上陸・産卵状況と産卵場環境の研究（田中）

・上陸個体の甲の計測、標識の装着を行う。標識装着の際に採取される肉片からは、DNA をとることができるため、今後の研究のために肉片を保存する。平成 14 年度より継続

・広い砂浜の様々な条件下における砂中温度を計測し、ウミガメの孵化場としての環境を検討する。平成 13 年度より継続

##### 四国のウミガメ類の産卵場に関する研究（田中）

昨年度は幡多地域から安芸に至る四国南岸の海岸環境を調べ、ウミガメの産卵状況と比較検討した。今年度はさらに調査範囲を広げると共に、ウミガメが何を基準にして産卵地を選ぶのか、海岸環境だけでなく、視野を広げて検討する。平成 13 年度より継続

##### ウミガメ情報ネットワークを作る(田中)

個人的な人脈はできたので、第 1 回の会合を開くことを目標にする。

平成 13 年度より継続

##### ウミガメの回遊経路、成長、および死亡頭数に関する研究（田中）

日本ウミガメ協議会の研究の一環として、幡多地域の大敷網に混獲されるウミガメについて、生きている個体は、甲長を測定、標識を装着し放流する。混獲され死んでしまった個体は、解剖し胃内容物を調べる。消化管内から採取した海藻を同定し、幡多地域の海藻相との関係を考察する。胃内容物は保存する。平成 13 年度より継続

### 3. 動植物相関係

幡多地域の海岸植物相に関する研究（田中）

海岸の環境と海岸植物相の関係を検討する。平成 13 年度より継続

幡多地域のサンゴ等分布調査（全員）

マンタ法により幡多地域全域のサンゴの分布を明らかにし、今後の研究の基礎資料とする。本調査は概ね 5 年に 1 回の頻度で行い、サンゴの分布密度の高い地点、特異なサンゴ群集の存在する地点、その他必要な地点を抽出して毎年モニタリング調査を行う事により、幡多地域全域のサンゴの状況を把握する。平成 14 年度から開始したが、初年度は夏期の天候不順等の影響で、大月町南岸の一部の海域と土佐清水市の竜串海域でしか調査が行えなかった。平成 14 年度より継続

大月町海域の海棲動植物相調査（全員）

研究所周辺海域の動植物相について、情報や標本の収集・整理に努める。当面、岩瀬は刺胞動物及び触手動物を、林は環形動物を、中地は棘皮動物を、田中は海藻草類を主として収集・整理する。

また、毎年 1 人の専門家を招いて調査を行ってもらい、結果を英文学術誌に掲載する。平成 15 年度に招く専門家は未定。

平成 14 年度より継続

### 4. その他

ヒメアサリの産卵生態に関する研究（中地）

- ・ 西泊地先に生息する二枚貝「ヒメアサリ」の生殖周期や生殖細胞の形成過程について研究する。今年度は組織切片を作り、まとめを行う。

平成 13 年度より継続

相模灘およびその沿岸地域の動植物相の経時的比較に基づく環境変遷の解明の調査研究（岩瀬）

国立科学博物館 相模灘調査実行委員会が主催して行っている標記研究に、館外研究者として参加。平成 14 年度は、平成 13 年度に相模灘で採集され、送付されたヤギ類 29 標本について分類学的・文献学的検討を行い、中間報告を行った。本研究は平成 17 年度まで継続される予定。

平成 14 年度より継続

ウニを除去することにより藻場を復元する実験（田中）

大月町周防形と古満目の 2 ヶ所の調査地において 10 × 10 m の実験区と対照区を設け、実験区においてウニの除去試験を行い、海藻の生育状況の違いを調べる。

平成 14 年度より継続

【受託調査・事業等】

現在の所、委託をうける可能性の高い事業は以下の通り。

1. サンゴ移植事業

平成 13 年度、14 年度に引き続き、15 年度も愛媛県西海町で行った移植の追跡調査と、新たに行う移植の指導及び追跡調査がある予定。宇和海海中資源保護対策協議会（会長は愛媛県西海町長）から研究所への委託事業。

【啓蒙・広報活動】

1. 和文機関誌「CURRENT」の発行継続（季刊：4，7，10，1月）
2. 英文機関誌の発行継続（年1回）
3. ホームページの運用（随時）
4. 「黒潮生物研究所サマースクール」の開催（7～8月）
5. 近隣の教育機関との連携および自然観察等イベントのコーディネートや協力  
市町村や教育・福祉等の団体、学校等からの依頼を受けて、様々なイベントをコーディネートしたり協力する
6. 研究所の活動を紹介するビデオの作成・上映会の開催（随時）